

# 出張授業「海とさかなの不思議を学ぼう！」 ～「唐津くんち」の「アラ」ってどんな魚～

資源生産部 藻類・沿岸資源管理グループ 中川 雅弘

平成30年6月14日に佐賀県唐津市立大志小学校で出張授業「海とさかなの不思議を学ぼう！」が開催され、筆者が講師を務めました。今回は、その準備から当日の様子までを紹介します。

唐津といえば、最初にイメージしたのは「唐津くんち」ですが、この「唐津くんち」のメインイベントである「曳山（やま）」の見物を目的とした観光客数は3日間で50万人を超えます。また、「くんち料理」のメインの一つとして「アラの姿煮」がありますが、市内の皆さんはもちろんのこと、県内外の大勢の観光客の皆さんにも人気があり、毎年楽しみにされているようです。「アラ」とはクエ（ハタ科）の九州地方の呼び名で、体の大きさが1メートルにもなる魚です。

## 授業の準備

今回は、大志小学校の二・三年生の皆さん（合計152名）を対象に開催されることになりましたが、低中学年であるため、難しい用語は一切使うことはできません。また、授業の途中で休みを入れますが、小学生にとっては90分という長い授業なので子供達が飽きないようにすることと、この授業で子供達に何を伝えたいかを中心に考えながら、授業内容を組み立てました。授業を開催する地域の文化、また、当グループではハタ類の資源研究を実施していますので、必然的に「唐津くんち」と「アラ」というテーマが浮かび、結びついていきました。



写真1 授業全体の様子（朝日学生新聞社提供）

## 授業当日

子供達の興味を最初につかむことができれば、後はスムーズに進みます。そこで、子供達が毎年楽しみにしていると思われる唐津くんちの曳山の話から授業を始めました（写真1）。この間、子供達と質疑を交えながら徐々に授業が盛り上がっていくと、小学校の先生から素敵なサプライズ。「唐津くんちの歌を皆で歌おう」の一声で、

子供達の歌声が体育館中に響き渡り、授業は最高潮を迎えていきます。ここで、話題を「唐津くんち」から、アラの不思議な生態などに変えて、授業を進めていきました。その中でも、子供達が一番の興味を示したのは、性転換の話でした。「生まれてきたアラは、最初はみんな女の子」という説明をすると、驚きの声が体育館中に響き渡りました。アラや生物全般に関わる予想もしなかった質問攻めを受け、ひや汗をかきながら一つずつ答えていきました。そして最後は、海外で食糧難に苦しむ同じ年代の子供達のことを話していくと、これまで賑やかだった体育館が静まり、子供達が真剣に話を聞いています。学校に通えること、毎日ご飯を食べられることを当たり前と思わず、感謝の気持ちを忘れないようにという、大きな声で「は～い」という素晴らしい返事が返ってきました。



写真2

小学生との質疑の様子（朝日学生新聞社提供）

## 授業を終わって

今回は元気でかわいらしい小学生の皆さんと出会うことができ、授業を通して楽しい時間を共有することができました。将来、この子供達の中から水産に携わる研究者が誕生することを心から願っています。

発行：国立研究開発法人水産研究・教育機構  
編集：国立研究開発法人水産研究・教育機構  
西海区水産研究所

〒851-2213 長崎県長崎市多良良町1551-8

TEL 095-860-1600 FAX 095-850-7767

ホームページアドレス <http://snf.fra.affrc.go.jp>

本誌掲載の文章・画像等の無断転載を禁じます。